

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 文学研究科 |
| 大項目 | 9 教育研究等環境 (研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 要素 | 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 |
| | ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 |
| | 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 大学院指導教員の研究専念時間を確保する。 | →担当科目数の適正化と職務分掌の公正化(時間数)。外部研究資金への申請数、採択数、採択率。 | B | B | | | |
| 2. 大学院生の研究成果発表を促進する。 | →大学院生の研究成果発表数。 | B | B | | | |
| 3. 教育研究を支援する環境や条件の整備; 個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を継続する。 | →個人研究室使用に関するニーズアセスメントのデータ。 | C | C | | | |
| 4. 学内倫理委員会による「人を対象とした臨床・調査・実験研究」倫理規程を厳格に適用する。 | →学内倫理委員会の審査を受けた研究申請数。 | C | C | | | |
| 5. 各種研究助成金制度(個人研究費、学会出張費、大学の国際発表助成金制度)の継続的発展を確認する。 | →各種助成金成果報告書 | B | B | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|----------|---|
| 小項目9.0.4 | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 研究活動を支える個人研究費・学会出張旅費は専任教員に対して一定額が保証されており、学内の研究発表媒体の面でも、関西学院大学人文学会機関誌『人文論究』や文学研究科が発行する紀要によって、教員および大学院生の研究成果の公表が可能となる環境が整えられている。科研費採択課題数(新規・継続)も2009年度14件、2010年度16件、2011年度(4月末)20件と増加傾向にあり、それに加えて大学共同研究費を活用して研究の深化を目指す教員数も安定して見られる。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

専任教員の研究費（実績）【大学基礎データ】
 専任の研究旅費【大学基礎データ】
 学内共同研究費【大学基礎データ】
 教員研究費内訳【大学基礎データ】
 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ★ | 小項目9.0.4 | |
| | その他 | |

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ★ | 小項目9.0.4 | |
| | その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ★ | 小項目9.0.4 | |
| | その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|----------|--|
| ★ | 小項目9.0.4 | |
| | その他 | |

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

| | | |
|---|---------------|--|
| ★ | その他 (自由記述) | |
|---|---------------|--|

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○科研費採択課題数が経年で増加していることは評価できます。その他、進捗評価が低い事柄について一層の努力が望まれます。

【学内委員】

○教員の研究専念時間の確保と増加はぜひ実現されなければならない問題です。また、研究のための物的な環境の改善も重要です。絶えざる努力によってこれらに関する状況が少しでも良くなることを期待されます。

○科研費採択課題数の増加は評価できます。教育環境の整備はどの学部でも問題になっていると思います。

○昨年度、追加記述された課題については、本年度触れられていません。解決されたのでしょうか。

○各目標の進捗と達成に期待します。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・教員の研究時間を確保するとともに、教育研究を支援する環境や条件の整備；個人研究室の整備、教育設備・機器の充実化を図ることは重要です。研究の質を向上させることなくして提供する教育サービスの質は高まりません。また、TAやRAの効果的な利用などの教育研究支援体制の充実が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 大学院生の研究環境の整備に関して、文学部本館の閉館が授業終了時となっており、18時30分以降、研究室を使用できないことに対する苦情が大学院生から出ている。全学的な研究環境改善の方向性と連動させて、どのように対処すべきかについて模索中である。